



11月・12月講座 PICK UP

11月、12月の講座から伝統文化、生徒指導、マネジメントに関わる4講座を紹介します。

申込期間 9/2 (月) ~ 9/19 (木)

508 京の教育「みやび」講座

11月1日(金)・総合教育センター
講師: 落語家 桂米二氏、佛教大学 斉藤利彦 教授

京都府教育振興プランの実現に向け、**京都の歴史、伝統・文化**について体験的に学び、教科横断的な視点で効果的な学習を着想し、実践につなげるための基盤を養います。

504 生徒指導講座 - 生徒指導の機能を生かした学級づくり -

11月5日(火)・総合教育センター
講師: 上越教育大学教職大学院 赤坂真二 教授

児童生徒一人一人の個性や人間関係を踏まえた**学級経営、ホームルーム経営の在り方**について理解を深めます。

709 カリキュラム・マネジメント推進講座

12月2日(月)・総合教育センター
講師: 大阪教育大学大学院 田村知子 教授

自校の教育目標を達成するための**「カリキュラム・マネジメント」**を勤務校で推進するための実践力を養います。
※15年目の教諭は必ず受講すること。

711 学校組織カパワーアップ講座Ⅱ

12月13日(金)・北部研修所
講師: 鳴門教育大学 佐古秀一 理事・副学長
文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課
情報教育振興室 折笠史典 室長

最新の教育動向や研究成果から幅広い知見を養い、より一層の**学校運営の充実と改善**に必要な資質能力を高めます。

子どもたちのSOSに敏感に

— 教師が知っておきたい子どもの自殺予防 —

日本国内での自殺者は年々減少傾向にあります。自殺は10代の死因として依然高い割合を占めています。特に15歳~19歳世代では自殺は死因の第1位(約40%・2位の突然死の2倍)となっています。ある調査では「死にたいと思ったことがある」という子どもは小学校の低学年から増え始め、中・高校生では2~3割に達するとされ、新学期が始まる前に子どもの自殺が急増することも知られています。子どもが自殺に追い詰められる前に、まず周囲の大人が自殺の危険性に気づくことが大切です。

様々なサインに注意を ~行動の変化~

離別や死別、予想外の失敗などの喪失体験や、友達とのトラブルやいじめなどにより集団の中で孤立感のある子ども、また極端な完全主義や白黒思考(=二者択一的思考)のある子どもなどは、自殺の危険性が他の子どもよりも高いと考えられています。

自殺のサインとしては、「これまで関心があったことに興味を失う」「大切なものを友達や家族にあげてしまう」「なぜやりに態度になる」「自殺についての文章や絵を描いたり、ほのめかしたりする」など、特徴的なサインがあることが知られています。**これらのサインやその子どもを取り巻く環境や状況の変化と合わせて、総合的に判断することが大切です。**

参考資料: 平成21年文部科学省
「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」



子どものサインに気づいたら ~チーム対応・関係機関との連携~

子どもがSOSのサインとして「死にたい」と言ったり自殺をほのめかしたりした時は、下記「**TALKの原則**」を参考に子どもの話に耳を傾け、心配している気持ちを伝えましょう。「大丈夫、大丈夫!」といった安易な励ましや「そんなことを考えるな!」という否定は、子どもの気持ちを追い詰めることにつながりかねません。子どもに自殺の危険があると感じた場合は、決して一人で抱え込まず、学校全体のチームで対応していくこと、子どもの家族や医療機関・専門機関と連携していくことが重要です。

何よりも子どもの自殺の危険に対処するには、まず**普段からSOSを出しやすような関係性を作っておくことが大切**です。

TALKの原則

- T (Tell)**: 心配していることを言葉に出して伝える。
- A (Ask)**: 「死にたい」という気持ちについて率直に尋ねる。
- L (Listen)**: 死にたいほどつらい相手の気持ちを傾聴する。
- K (Keep Safe)**: 相手の安全を確保する行動をとる。

学びの直送便

いよいよ2学期突入！学習や特別活動を通して、子どもの様子がいまぐらしく変化します。チーム学校として子どもの成長を支えましょう！

最新の情報を授業改善につなげよう！

- ✓ 学びをつなぐ幼児教育&生活科講座Ⅰ
- ✓ 最先端科学から学ぶ講座
- ✓ 道德教育の推進講座



働き方改革につながる考え方に活かそう！

- ✓ チーム学校講座シリーズ
— 教員と事務職員の協働 —



行動を機能で捉え生徒理解につなげよう！

- ✓ 特別支援教育
「児童生徒の気になる行動、その理解と対応」講座



NO. 407 7/23

学びをつなぐ幼児教育 & 生活科講座Ⅰ

講師：京都教育大学 古賀 松香 准教授

講義では、幼児期に身に付けた社会情動的スキル（非認知スキル）が、その後の生き方に大きく寄与する事例を紹介され、**幼児期から子どもと「ともに考え、深め続ける」教師の働きかけを通して、主体的な学びを引き出した**り、**情動を制御したりする能力等を獲得させていくことが重要であることを学びました。**演習では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、幼小どちらにも互恵となるような交流活動を立案し、それぞれの立場から、連続性のある育ちを実現するための工夫について活発な意見交流ができました。



研修の様子

NO. 428 7/12

最先端科学から学ぶ講座

講師：京都大学 iPS細胞研究所
井上 治久 教授
堀田 秋津 講師
鈴木 美香 特定研究員
佐々木 あやか 特定研究員

京都大学iPS細胞研究所にて、第一線の研究について学び、ディスカッションでは、「**最先端科学と教育や社会とをどうつなぐか**」、「**最先端技術に関する倫理面や道徳的な議論をどう深めていくか**」と課題提起があり、**参加者全員で考えを深める貴重な機会となりました。**さらに、皮膚から作ったiPS細胞のコロニーや、iPS細胞を分化させて作った軟骨組織などを**実際に観察することができました。**



iPS細胞乾燥標本



iPS細胞観察の様子

NO. 438 7/24

道德教育の推進講座

講師：畿央大学 島 恒生 教授

木津川市立加茂小学校の杉山育代教諭の実践発表をもとに、道德教育推進の視点を共有しました。また、道德科の特質を踏まえた教材の活用の仕方、ねらいとする価値に迫るための教材における道徳的価値の捉え方、さらに児童生徒を認め、励ます評価の在り方等について御講義いただきました。**ねらいを焦点化することにより、児童生徒の意見や疑問に感じたことをさらに深めるための問いに繋げることができます。道徳的価値の理解を深めるために必要な考え方を学ぶことができました。**



研修の様子

NO. 321, 322 7/23, 7/24

チーム学校講座シリーズⅠ・Ⅱ — 教員と事務職員の協働 —

「チーム学校」の中での教員と事務職員の協働を目指し、下関市立川棚小学校澄川校長と松阪市立久保中学校西井総括主幹から御講義いただきました。

兵庫教育大学が全国で実施している「新時代対応学校管理職マネジメント等研究会」のテキストを使用し、具体的な学校のケースに即して、現状把握、情報の収集・分析を行い、課題解決に向けた構想・企画を考える演習を行いました。

本講座の最大のポイントは、教員と事務職員が学校課題を共有しながら、課題解決に向けてアプローチすることです。2日連続の講座で、**それぞれの職種だけでは考えの及ばない新たな「協働」の感覚を演習を通して体験することができました。**



「チーム学校」としての体制づくりを！

- 一人一人の専門性を生かそう！
- コミュニケーションを大切にしよう！
- 一人で悩まず、相談しよう！

NO. 523 7/26

特別支援教育「児童生徒の気になる行動、その理解と対応」講座

講師：帝塚山大学 式部 陽子 講師

本講座では、発達障害のある児童生徒の気になる行動の背景や具体的な対応について理解を深め、指導・支援に生かすことをねらいとして講座を実施しました。一人一人の個別的な行動に対して、まずはありのままに観察し、仮説を立てることで、実践する過程を支える応用行動分析学という考え方を御指導いただきました。



式部陽子先生

受講者は、「行動を機能でみる」という演習を校種別で行い、**「気になる行動」と考えているものの多くが、児童生徒にとっては注目を求めているコミュニケーションであったり、苦手な活動から逃避するものであったりすることに気づきました。**行動の機能がわかると、なぜこのような行動を取らざるを得なくなったのかという**環境そのものに視点を変えていくことが重要であることに気づけます。**その環境の中には、教師自身の行動も含まれています。教師の行動も子どもの行動に影響を与えていることから、**教師自身の行動もありのままを振り返り、分析していくことが今後求められます。**